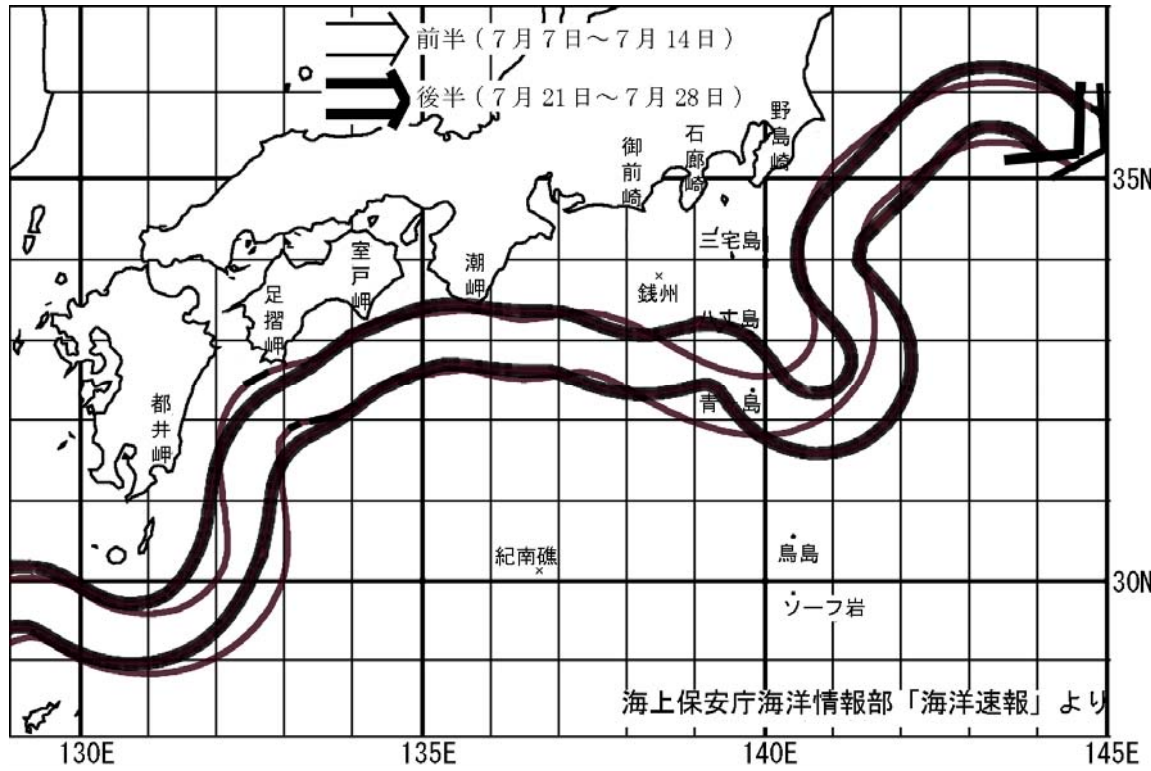


漁海況月報

平成21年 7月 1日

No. 7 ~7月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

前半の黒潮は、九州の都井岬沖でやや離岸し、足摺岬沖から潮岬沖にかけて接岸傾向で流れた。その後 33° Nを東進し、御前崎沖から南東に向かい、青ヶ島を通り、伊豆諸島の東 141° Eを北上し、房総半島に沿って北東へ流去した。

後半は、前半に比べ都井岬沖ではやや接岸、足摺岬沖ではやや離岸し、室戸岬から潮岬沖にかけては引き続き接岸傾向で流れた。その後、遠州灘沖 33° Nを東進し八丈島のやや南から南東に向かい、140.5~142° EをS字状に蛇行して北上した。前半の熊野灘沖の離岸変動が御前崎沖へ、八丈島付近の小蛇行が八丈島東へそれぞれ移動した。石廊崎沖、八丈島では黒潮が20マイル以上接岸した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では16~23℃台、駿河湾の東部では21~24℃台、西部では18~24℃台で経過した。伊豆諸島北部に冷水域が広がり沿岸への暖水波及はなく、平年に比べ低めとなった。さらに伊豆半島東岸と駿河湾西部では南西風に伴う沿岸湧昇により低水温となり、下田では9日以降、稲取、焼津では10日以降、平年差4℃以下を観測した。

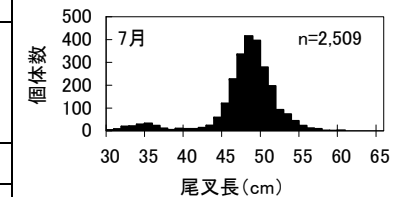
【竿釣近海カツオ】

7月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は306トンを前年同期の1.6倍であった。魚価は474円/kgで、前年同期を上回った。

静岡県近海では34° ~34° 25' N、137° ~139° Eの遠州灘から駿河湾沖で小・中（尾叉長48cmモード）カツオを主体に漁獲した。また、チン（35cmモード）カツオも混獲された。

竿釣りカツオ水揚量（近海・沿岸、県内主要5港）

期間	水揚量 (ト)	水揚 隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
21年 7月上旬	95	31	3.1	410
中旬	153	51	3.0	477
下旬	58	39	1.5	573
21年 7月計	306	121	2.5	474
20年 7月計	193	39	4.9	294
19年 7月計	291	77	3.8	263



御前崎港における測定結果

(平成21年から沿岸と近海竿釣り船を合計した値を載せます。)

【定置網】

平成21年7月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は147トンを、昭和57年以降で2番目に少なく、操業がなかった伊豆山、赤石を除く1漁場当たり水揚量24.5トンは前年61.0トン（6漁場）の40%、平年値（昭和57~平成20年）35.8トンの68%であった。

魚種別水揚量は、①スルメイカ56.8トン（A：前年同月比534%、B：平年同月比655%）②サバ類35.1トン（A：17%、B：36%）③イナダ10.4トン（A：1,011%、B：599%）④ワラサ10.2トン（A：前年68%、B：326%）⑤マアジ7.8トン（A：13%、B：25%）の順であった。

スルメイカは北川を中心に入網し、昭和57年以降で2番目に多く、外套背長のモードは23cmであった。サバ類は川奈、古網、北川を中心にゴマサバ主体で入網し、ゴマサバは尾叉長のモード33cm、

定地水温の旬平均値（℃）（下段は偏差）

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	22.2	20.2	19.3	22.1	23.9	21.3	20.1
	0.2	-1.1	-2.3	-0.7	1.1	-1.4	-0.1
中旬	20.7	18.8	17.6	22.7	24.7	22.2	20.2
	-2.3	-3.0	-4.2	-1.2	0.7	-1.6	-0.7
下旬	22.7	20.5	20.3	22.4	22.8	22.8	21.6
	-1.6	-2.2	-2.6	-2.5	-2.0	-2.0	-0.2
月	21.9	19.8	19.3	22.4	23.8	22.1	20.7
	-1.2	-2.1	-2.8	-1.5	-0.2	-1.7	-0.3

マサバは35 cmで、サバッコは18 cmにモードがみられた。ブリのうち2008年級群であるイナダ銘柄は川奈、富戸中心に入網し、昭和57年以降で2番目に多く、尾叉長のモードは51 cmにみられ、2007年級群が中心のワラサ銘柄は川奈、富戸、赤沢を中心に入網し、尾叉長のモードは67 cmであった。マジは谷津を中心に入網し、尾叉長のモードは21 cmにモードを持つ2008年級群と思われる群が中心で、じんだ銘柄として13 cmにモードを持つ当歳魚もみられた。

漁場別水揚量は、北川48トン（スルメイカ、サバ類中心）、川奈33トン（サバ類、イナダ、ワラサ中心）、古網27トン（サバ類、スルメイカ、ウルメイワシ中心）の順であった。

【サバたもすくい・棒受網】

小川港には、たもすくい・棒受網によってゴマサバ691トン（A：前年同月比71%）が水揚げされた。ゴマサバの1隻あたり水揚量は32.9トン/隻（A：95%）ではほぼ前年並み、平均単価は54円/kgで前年同月（72円）、前月（56円）を下回った。

たもすくいの漁場は銭洲に、棒受網の漁場は三本、三宅に形成された。棒受網では、27～28cmモードのゴマサバ2歳魚（2007年級群）が主体となり、21～23cmの0歳魚（2009年級群）も少量出現した。また、30～31cmモードのオアカムロも漁獲された。たもすくいでは、棒受網よりやや大型のゴマサバが漁獲対象となった模様。

小川港 サバ類（たもすくい・棒受網）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
21年7月上旬	0	245	3	6	0.0	41.1	—	54	三本
中旬	0	161	2	2	0.0	32.2	—	53	銭洲、三本
下旬	0	284	5	10	0.0	28.4	—	54	三本、三宅
21年7月計	0	691	10	21	0.0	32.9	—	54	—
20年7月	0	974	14	28	0.0	34.7	—	72	三宅、三本、銭洲
19年7月	2	407	10	23	0.1	17.7	184	61	大淵、中瀬、三宅

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【シラス船曳網】

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が536kg、遠州灘が620kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は592kgと前年同期(193kg)の307%、平年同期(過去5か年平均：304kg)の195%と前年、平年を上回った。また、総水揚量は1,460.8トンで前年同期(194.1トン)の753%、平年同期(576.7トン)の253%と前年、平年を上回った。平均単価は528円/kgで、平年同期(733円/kg)を下回った。

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。



シラス水揚量（主要6港）

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	110.4	17	217	509	487
舞 阪	499.4	17	810	617	506
福 田	279.9	16	428	654	501
御前崎	126.9	16	186	682	444
吉 田	265.8	18	432	615	492
静 岡	178.3	18	396	450	767
平成21年7月計	1,460.8		2,469	592	528
平成20年7月計	194.1		1,006	193	716
平成19年7月計	442.3		1,653	268	815

【まき網】

小川港ではマイワシが3.0トンの水揚げで平年同期(10.7トン)の28%であった。沼津港では、マイワシが22.6トンの水揚げで平年同期(161.8トン)の14%であった。カタクチイワシの水揚げはなかった。静浦港では、マイワシが0.6トンの水揚げで平年同期(41.6トン)の1.4%であった。カタクチイワシの水揚げはなかった(平年同期は177.8トン)。伊東港ではマイワシが169.7トンの水揚げで平年同期(34.6トン)の491%であった。

注) 平年同期：過去5か年(2004～2008年)平均

【調査船の動向】

富 士 丸

7月 1日 ～ 7月 18日 第3次航海(天皇海山) (18日間)

駿 河 丸

7月 1日	地先定線観測	(1日間)
7月 3日	地先定線観測	(1日間)
7月 6日 ～ 7月 7日	サクラエビ産卵調査	(2日間)
7月 8日 ～ 7月 10日	地先定線観測	(3日間)
7月 14日 ～ 7月 15日	短期海況・サクラエビ産卵・タチウオ調査	(2日間)
7月 21日	マリンロボ調査	(1日間)
7月 23日 ～ 7月 24日	サクラエビ IKMT 調査	(2日間)
7月 27日 ～ 7月 28日	サバ・タチウオ調査	(2日間)
7月 29日 ～ 7月 30日	シラスカイト式ネット調査	(2日間)